

薬連ハイライム

本田あきこ参議院議員 次期参議院議員通常選挙（令和7年7月予定） 自由民主党公認候補者に決定！

7月25日、自由民主党選挙対策本部は、第27回参議院議員通常選挙における第一次公認候補者を決定し、公表した。比例代表の一次公認候補者は現職11名、新人6名の計17名で、そのうち男性は13名、女性は4名である。われわれ薬剤師の代表である本田あきこ参議院議員も公認候補者として指名された。

5月30日に、自由民主党選挙対策本部による比例代表候補者の本田あきこ参議院議員へのヒアリングが行われ、公認申請書として経歴書、支援団体一覧などの関係書類を添付して6月18日に提出していた。

今後、本田あきこ参議院議員は、日本薬剤師連盟の組織内統一候補であるとともに、自由民主党の公認候補者という立場で全国の支部訪問をはじめとした活動を展開していくことになる。

第57回日本薬剤師会学術大会（埼玉） 日薬連盟ブースを出展します

2024年9月22日（日）、23日（月・祝）に埼玉県で開催される第57回日本薬剤師会学術大会において、日本薬剤師連盟は連盟活動に関するブースを出展いたします。

本大会の日薬連盟ブースには、私たちの代弁者として日々活動いただいている薬剤師議員の本田あきこ参議院議員、神谷まさゆき参議院議員をはじめ、日本薬剤師連盟の会長や幹事長も来場予定です。ぜひ、ブースにお越しいただき、日頃の意見や実現したい・して欲しいことなどを皆さんで意見交換しませんか。

また、写真撮影のほか、日本薬剤師連盟のYouTubeやInstagram等の広報チャンネルである「薬連タイムズ」において、インスタライブも配信予定です。併せて、連盟活動に関する資料の配布に加え、白衣やカバン・帽子につける「ファーマくん&ファーマちゃん缶バッジ」など日薬連盟グッズの配布も予定しております。皆様のご来場、お待ちしております。

オレンジ日記

創薬エコシステムサミットの開催 ～ドラッグ・ロスの解消と持続的な医薬品提供体制の構築～

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



通常国会が閉会し、主要官庁の夏の幹部人事も一段落した後、7月下旬、来年度の予算概算要求の基本方針が閣議了解されました。

引き続き厳しい歳出改革努力が求められる中、年末の予算編成に向けて、医療機関・薬局のデジタル化、物価高・賃上げ対応、中間年改定の取扱いなどについて党内の提言等も踏まえながらしっかりと主張してまいります。

また、国民に最新の医薬品を迅速に届ける観点で「創薬力の強化」も重要であり、私が政治を志した時から掲げているテーマでもあります。

7月30日に「創薬エコシステムサミット」が開催されました。

首相官邸での第一部で岸田文雄総理は、ドラッグ・ロスが生じている現状に触れながら、国内の創薬基盤の再構築・再強化を図り、医薬品産業が成長産業・基幹産業として民間の更なる投資を呼び込むことができるよう全力で取り組むと宣言されました。

私は、文部科学省を代表して第一部へ出席するとともに、創薬に関わる多くの産学官関係者が出席する第二部で大臣政務官として行った挨拶の中で、薬学教育においても創薬力向上のための改革を進め、薬を必要とする方へ一刻も早く、かつ安定的に医薬品を届けるための政策を実現していくと述べさせていただきました。

革新的な医薬品の早期実用化と一定期間経過後の安価でかつ安定的な供給とを両立させ続けることがわが国の社会経済の発展と国民の命・暮らしを守ることに寄与すると考えております。引き続き全力で取り組んでまいります。

政幸だより

薬価の中間年改定について

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



令和6年6月21日に閣議決定された骨太の方針2024（経済財政運営と改革の基本方針2024）について、前回ご紹介させていただきました。自民党内で大きな議論となった薬価の中間年改定について、今回は、4月18日の厚生労働委員会で行った質問をご紹介します。今年4月の薬価改定では、昨年続き、多数の品目の薬価が引き上げられました。2年連続で不採算品再算定の特例措置が実施されるという状況を政府としてどう捉えるのか。医薬品を安定供給するためには、現在の物価高騰の状況において「薬価を下支えする枠組み」を検討すべきではないか。問題解決に向けて、医薬品の薬価差や流通改善を含め、厚労省の考えを質しました。

厚労省からは、薬価を下支えする前提として、医薬品の価値に応じた価格での流通を確保することが重要との考えの下、これを徹底するため、医薬品流通改善ガイドラインを3月に改訂し、その周知及び遵守を徹底するとの回答がありました。そして、このような取組を進めながら、薬価の下支えの仕組みや流通の在り方については、薬価制度改革の議論における指摘や医薬品流通の状況等を踏まえて、関係者の意見を伺いつつ、検討して参りたいとの回答を得ました。

4大臣合意が行われた平成28年はデフレ下にありましたが、現在のインフレ状態は当時とは状況が異なることを踏まえ、毎年薬価が下がり続けることは、製薬業界や医薬品を扱う医療機関や薬局の経営に大きな影響を及ぼしています。中間年改定の在り方とその見直しについて検討するとともに、薬価を下支えする更なる枠組みについて、前向きな検討を行うよう要望しました。

薬価の中間年改定についてはこれから年末に向けて、本格的な議論がスタートします。本田顕子先生と共に頑張って参ります。